

インターバンクの声（2016年6月14日）

昨日のアジア時間には、中国の鉱工業生産や小売売上高といった指標発表があったが、数字が予想通りだったこともあり、相場への影響はほとんどなかった。今は、23日に行われる英国の欧州連合(EU)離脱か残留かを問う国民投票の行方を巡る思惑に相場が振り回されている格好だ。もう少し具体的に言えば、その国民投票に対する最新の世論調査結果が出るたびに、英ポンドを中心にした売りと買いが繰り返されている。アジア時間では、週末の最新世論調査が離脱支持派のリードがこれまでで最も広がったことが報じられた。その結果、円高とアジア株安が進み、そろそろロンドン勢が参入してくる時間には105円70銭台まで円買いが進んだ。その後のロンドン、ニューヨーク市場ではどうにか106円前後で踏みとどまった。前回5月につけた105円台の最円高水準が近くなったことへの警戒感や、別の最新英世論調査が残留支持派の巻き返しを伝えたことなどが要因となったようだ。今日のアジア時間も材料は乏しく、株価の値下がりか先か、円買いの動きが先かの相場展開が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。